

# 愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査（EDOR）報告

## 第58回（2017年7-9月期）

2017年10月5日

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施

問合先：曾我亘由（愛媛大学総合地域政策研究会）tel.089-927-9238

伊井達哉（愛媛県中小企業家同友会）tel.089-968-3112

集計：村上晴香（愛媛大学法文学部総合政策学科4回生）

文章：曾我亘由（愛媛大学社会共創学部産業マネジメント学科教授）

### 県内中小企業の景況感は底堅く推移

#### 【調査要領】

- (1) 調査期間 2017年9月1日～2017年9月30日
- (2) 対象企業 愛媛県中小企業家同友会会員企業
- (3) 調査方法 郵送による自計記入
- (4) 回答企業数 調査対象企業数 420社、回答企業 109社（回答率 26.0%）

#### 【EDOR 調査結果概要】

（売上高、採算、採算水準、業況）

前回調査（2017年7-9月期）では、採算に関する項目においてDI値は悪化したが、それ以外の項目においては横ばいで推移する結果となった。判定会議では、全般的な業況は前回から大きく変化しておらず、ほぼ横ばいで推移しているのではないかという意見が多く、採算の悪化については注意すべき項目であるが、県内経済は引き続き横ばいで推移していると判断した。

今回の調査では、すべての項目においてDI値は改善する結果となった。まず、売上高DIについては、前期比で3.6から13.0と9.4ポイント改善し、前年同期比についても8.0から18.7と10.7ポイント改善した。採算（経常利益）DIについては、前期比で-0.9から13.3へと14.2ポイント、前年同期比については-4.5から11.4と15.9ポイント改善した。採算水準DIについては34.9となり、前回の27.0から7.9ポイント改善した。自社業況判断DIについては前期比で1.8から16.7へ14.9ポイント、前年同期比では-0.9から20.6と21.5ポイント改善する結果となった。

採算が好転した企業にその理由をたずねたところ、売上数・客数の増加を挙げる企業ももっとも多く、次いで売上単価・客単価の上昇を挙げる企業の割合が多い結果となった。一方、採算が悪化した企業についてその理由をたずねたところ、売上数・客数の低下がもっとも多く、原材料費・商品仕入額の上昇を挙げる企業が多い結果となった。売上単価・客単価の下落、人件費の増加を挙げる企業の割合は減少し、人件費の増加についても減少する結果となった。

判定会議では、業況について肯定的な意見が多く、とりわけ国体開催による需要が増加している意見が多く聞かれた。

#### (経営上の問題点・力点)

経営上の問題点については前回調査と同様、労働力の確保が問題となっている。「従業員不足」を挙げる企業の割合が最も高く(45.7%)、次いで、「同業者相互の価格競争の激化(29.5%)」、「仕入れ単価の上昇(21.0%)」を挙げる企業の割合が多い結果となった。このうち「従業員の不足」は、2016年1-3月期以来の高い結果となった。「人件費の増加」を挙げる企業の割合は、前回は30.6%と2番目に高い水準にあったが、今回は20.0%に減少した。前回の判定会議では、パート・アルバイトの時給の増加など、人件費が増加している点が問題点として挙げられ、業績自体は好調であるが、時給を上げないと労働力が流出してしまう、などといった懸念が聞かれたが、今回は一時的に落ち着きをみせている。

経営上の力点については前回と同様、「新規受注の確保」、「付加価値の増大」、「人材確保」、「社員教育」を挙げる企業の割合がほぼ同じという結果となった。経営上の問題点として挙げられている「従業員の不足」については、「社員教育」に力を入れることで補っていたが、「人材確保」にも積極的に力を入れる企業が増加している。

以上の結果から、今回の調査では、すべての項目においてDI値が改善していることから、県内中小企業の景気は好調に推移していると考えられる。前回調査では、県内経済は横ばいで推移していると判断したが、今回はそれよりも好転していると考えられる。ただし、人手の不足は解消される状況にはなく、今後ますます深刻になる可能性があるため、この問題にすばやく取り組む必要がある。

# 第58回(2017年7-9月期)EDOR 調査結果

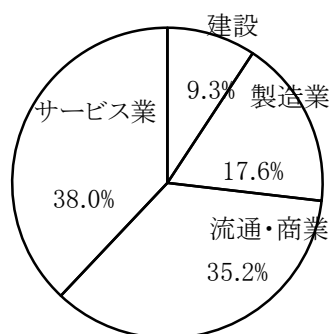
## 回答企業の基本情報

業種(4業種分類)

	社	%
建設業	10	9.3
製造業	19	17.6
流通・商業	38	35.2
サービス業	41	38.0
合計	108	100.0

※1社…農業

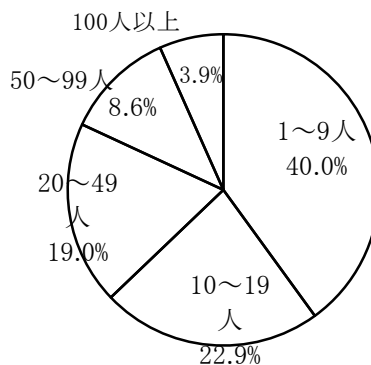
業種



常勤役員を含む正規従業員数

	社	%
1~9人	42	40.0
10~19人	24	22.9
20~49人	20	19.0
50~99人	12	11.4
100人以上	7	6.7
合計	105	100.0

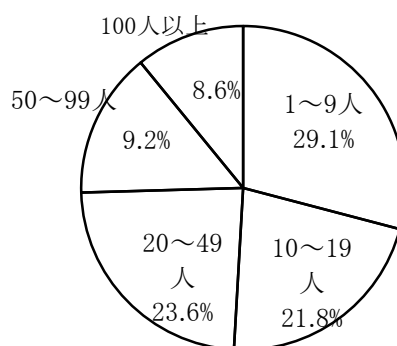
正規従業員数



臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数

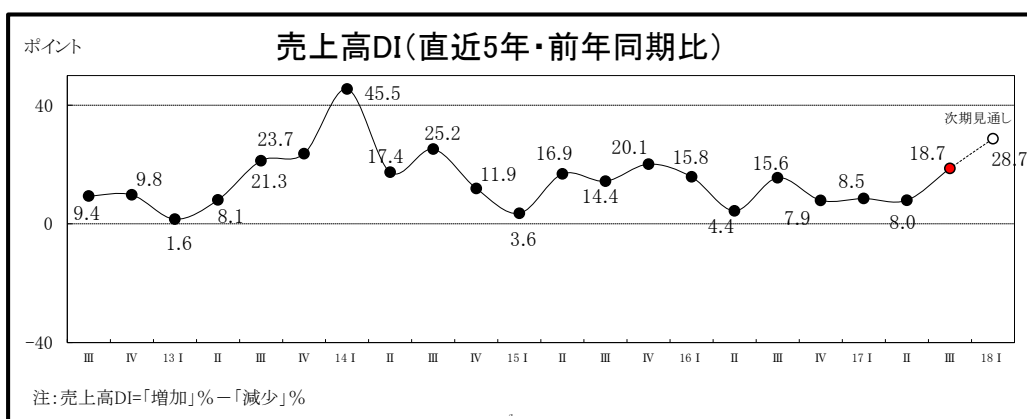
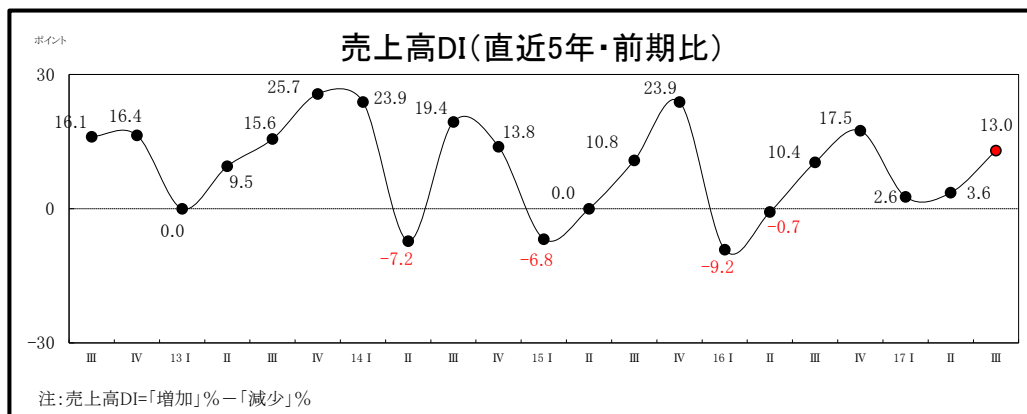
	社	%
1~9人	32	29.1
10~19人	24	21.8
20~49人	26	23.6
50~99人	16	14.5
100人以上	12	10.9
合計	110	100.0

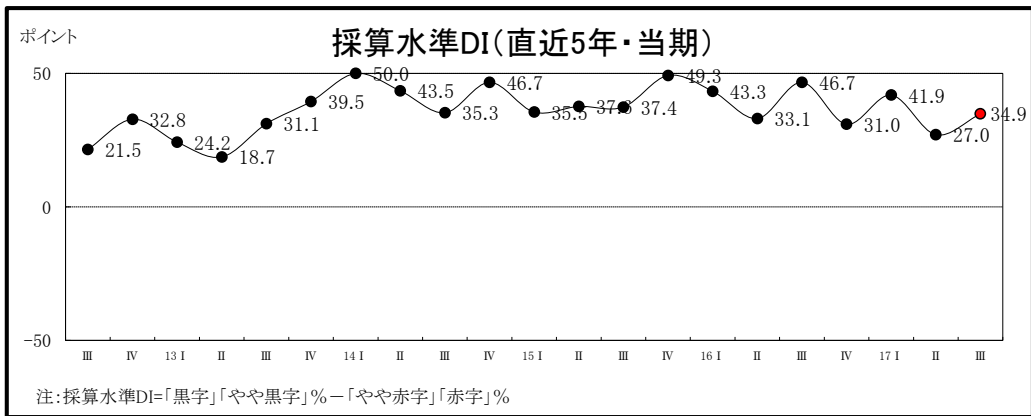
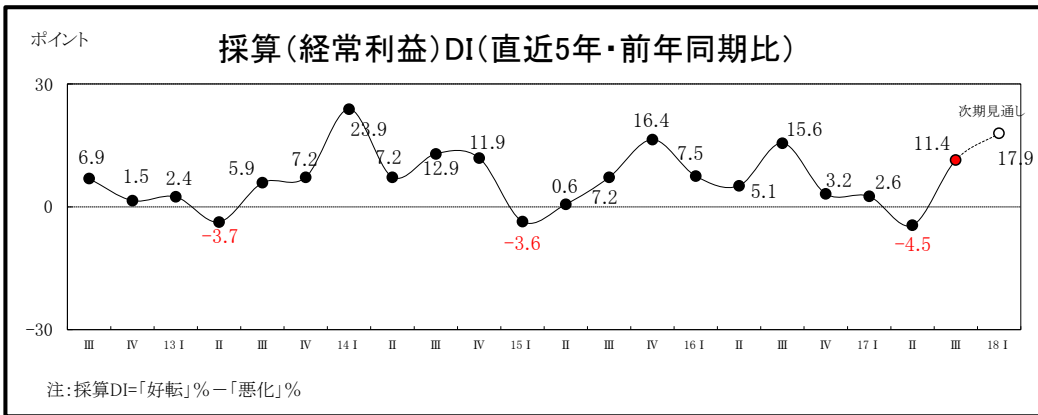
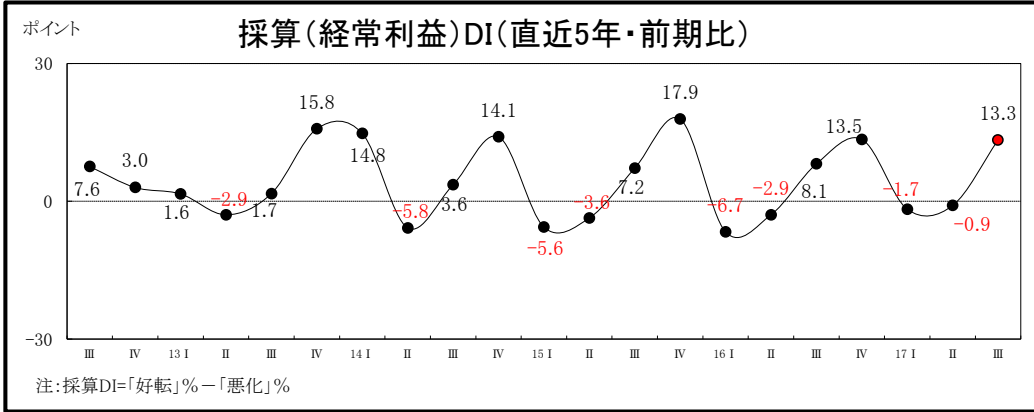
総従業員数

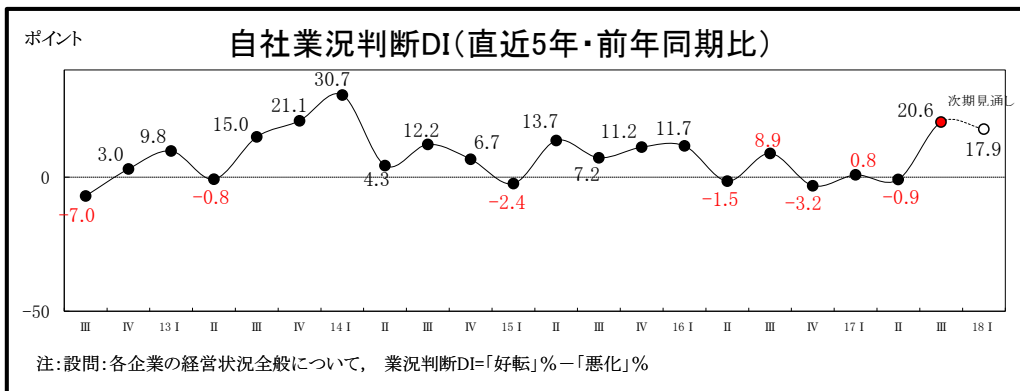
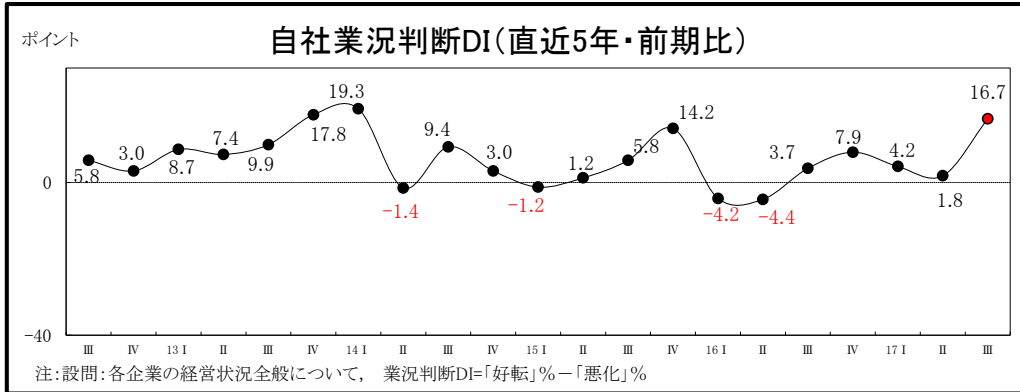


従業員数の平均と中央値

	人
常勤役員を含む正規従業員数	
平均	31.3
中央値	12
臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数	
平均	52.5
中央値	17

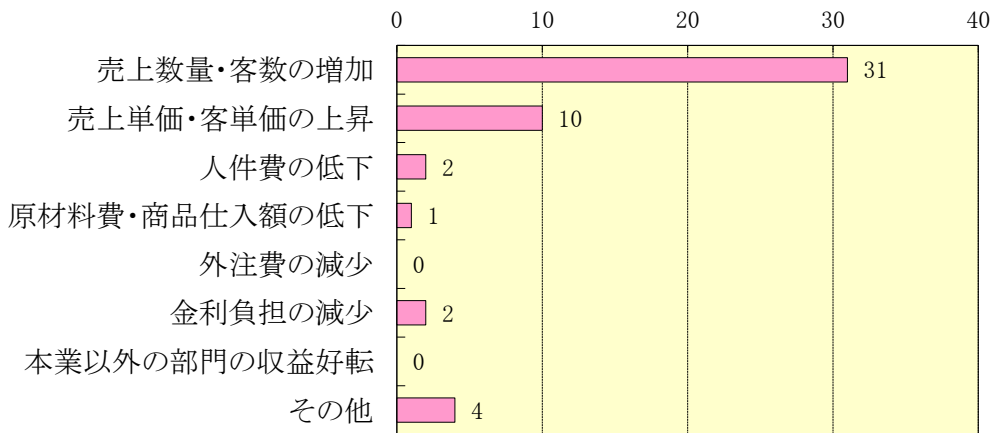






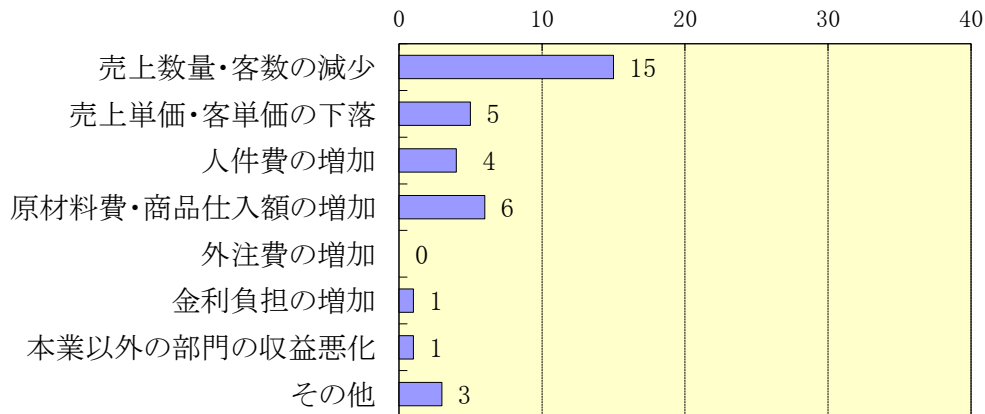
### 採算好転の理由

回答数

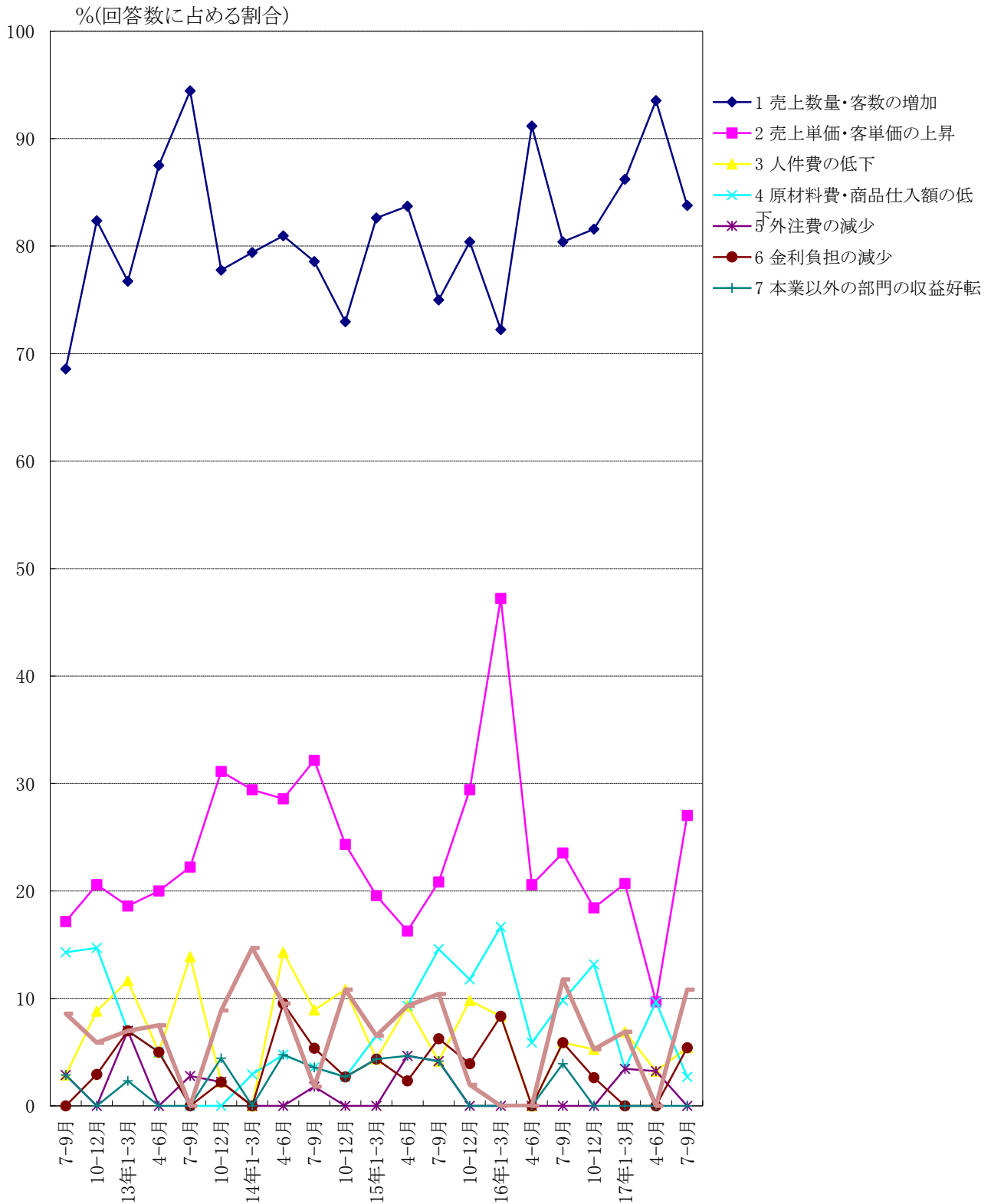


### 採算悪化の理由

回答数



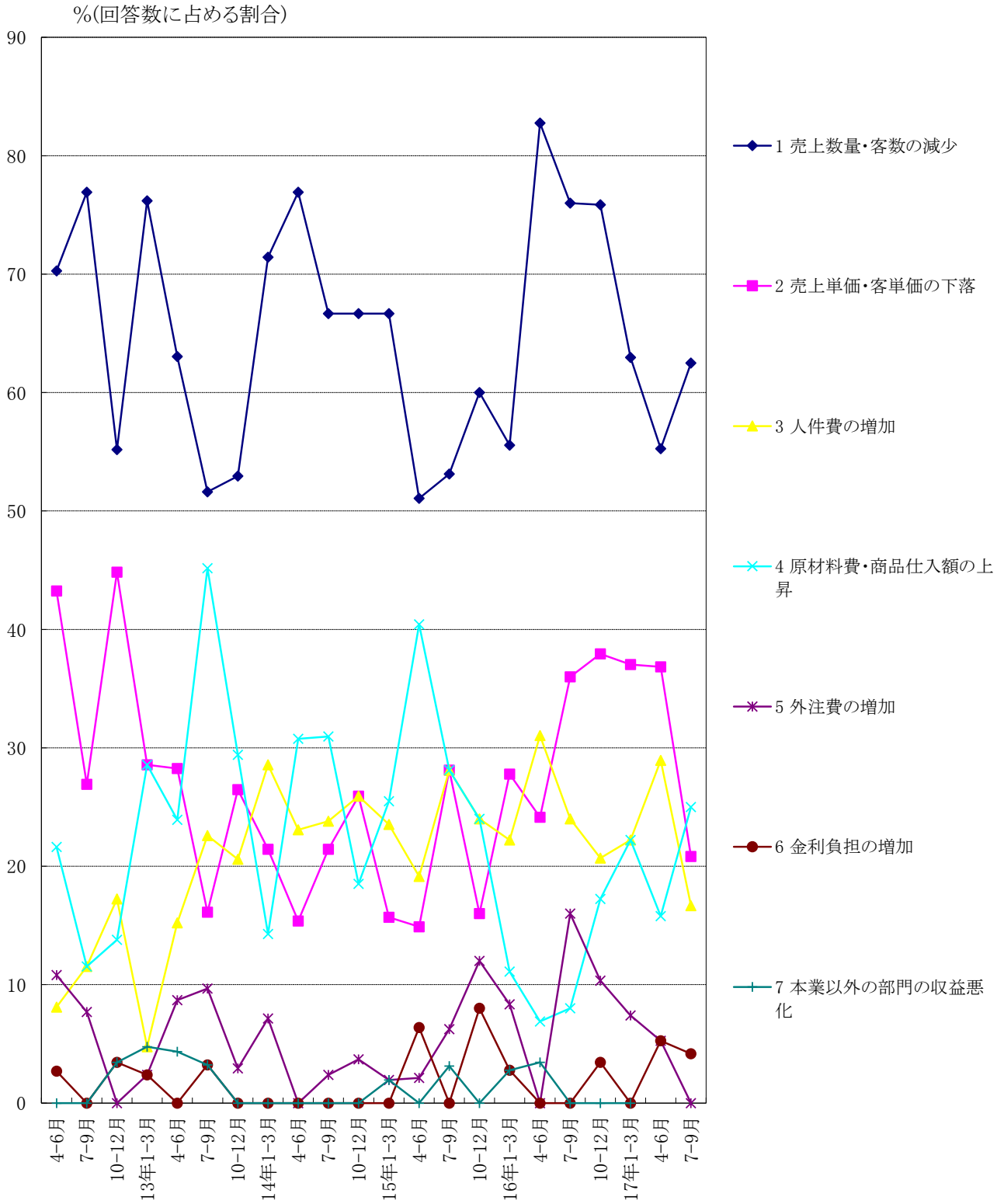
## 採算好転の理由の推移(直近5年)



(備考)選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。



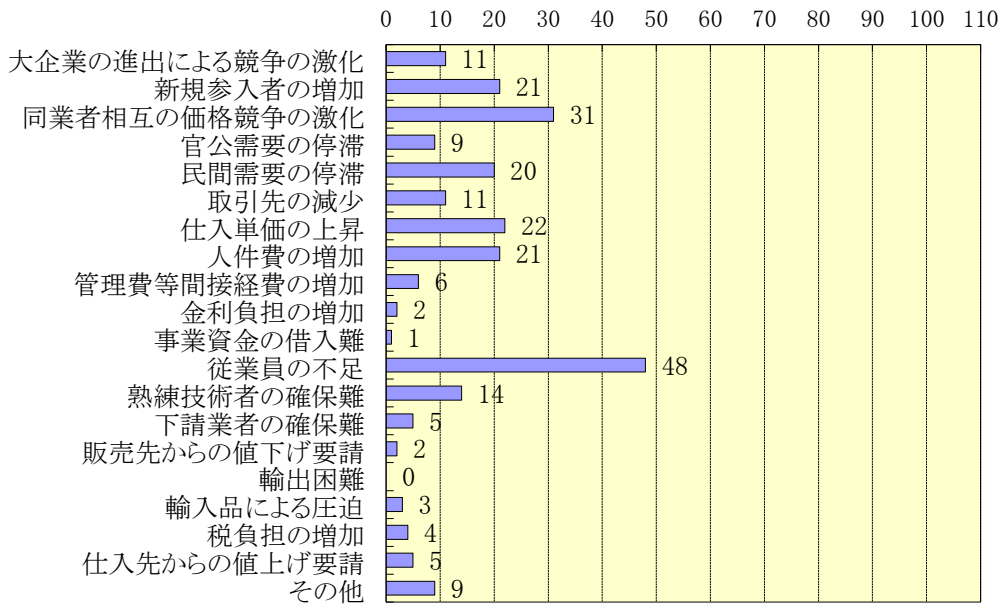
## 採算悪化の理由の推移(直近5年)



(備考)選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

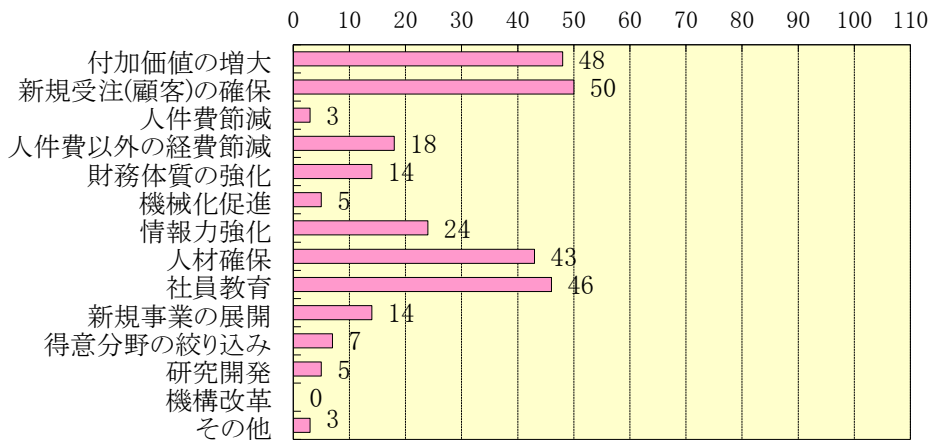
### 経営上の問題点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



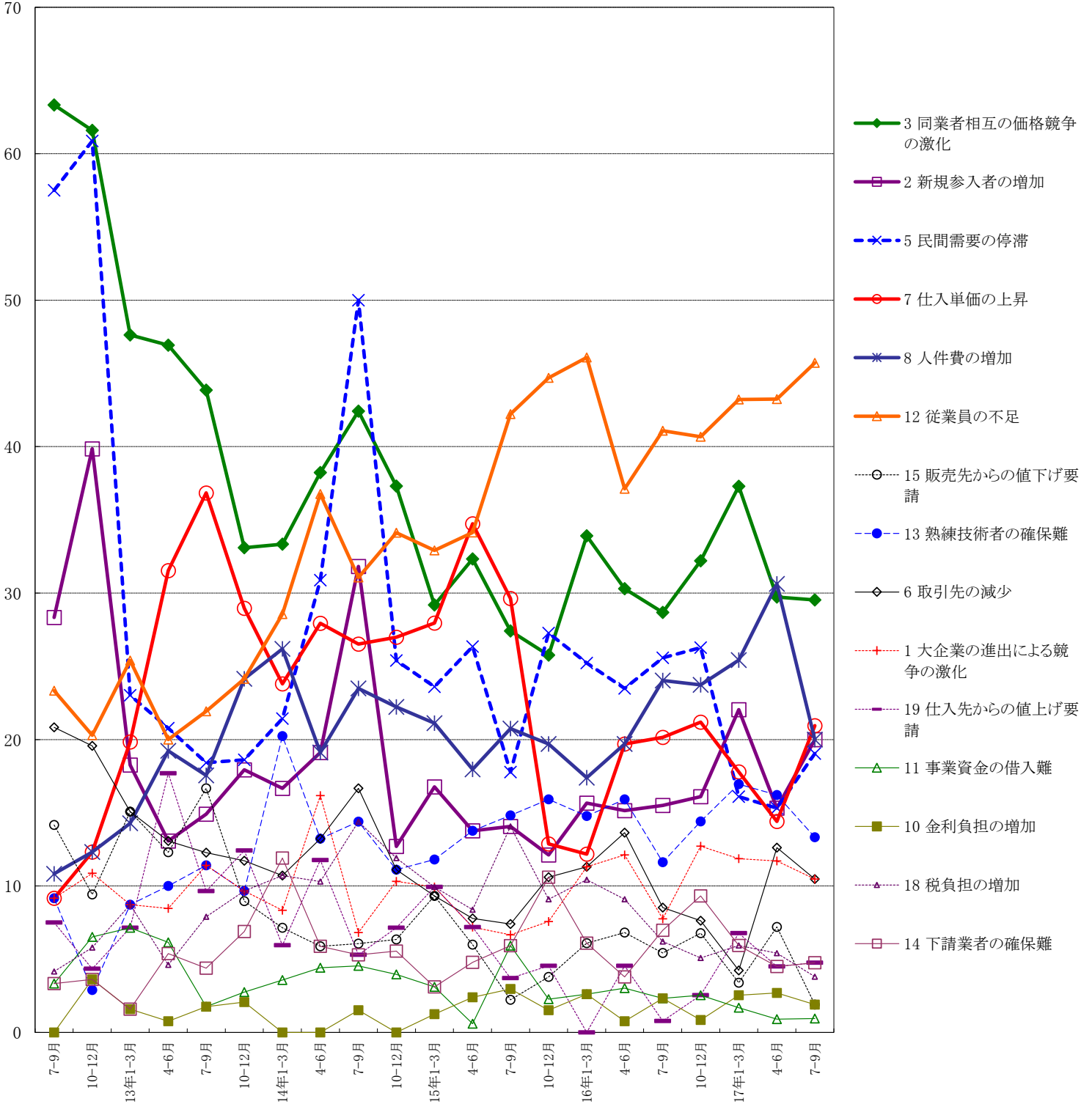
### 経営上の力点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



# 今期における「経営上の問題点」の推移(直近5年)

% (回答数に占める割合)



## 次期に考える「経営上の力点」の推移(直近5年)

% (回答数に占める割合)

